

日野市立病院 在り方検討委員会 (市説明資料)

令和8年6月 企画経営課



日 野 市
Hino City

市当局が現状考えている方向性



日 野 市

Hino City

日野地域未来ビジョン2030と地域未来総合戦略（案）



地域未来
ビジョン

総合戦略

個別計画
個別事業



- 国内外の社会変動
- 価値観の多様化
- 少子高齢化
人口減少
- 誰かの「咲かせたい花（実現したい未来）」を多様な主体が協力して育てあう
 - **個のウェルビーイング（幸福感）を高めることが地域づくりのカギ**
 - 市民、企業、大学、行政は対等なパートナーとして、それぞれの持つリソースを出し合い、主体的に考え、自分たちの力で解決していく「**共創社会**」を目指す

- ビジョンを実現するために、**みんなが「何をやるか（中目的）」の作戦書**
- リソースを投じるべき施策分野の優先順位の明確化
- 行革・**共創**・SDGsの考え方の一本化

市が目指すビジョン～健康・医療分野～

データ等に基づいた予防医療が行き届き、健康を保って自分らしく暮らせるまち

予防に向けた自律的な健康管理

主体的に健康管理を行う意識をもつ市民が増える

デジタルとリアルとの融合による価値創造

健康管理とイノベーションの実践

データヘルスと予防医療

デジタルを活用した疾病予防、早期発見体制が整っている

誰一人孤立させない社会

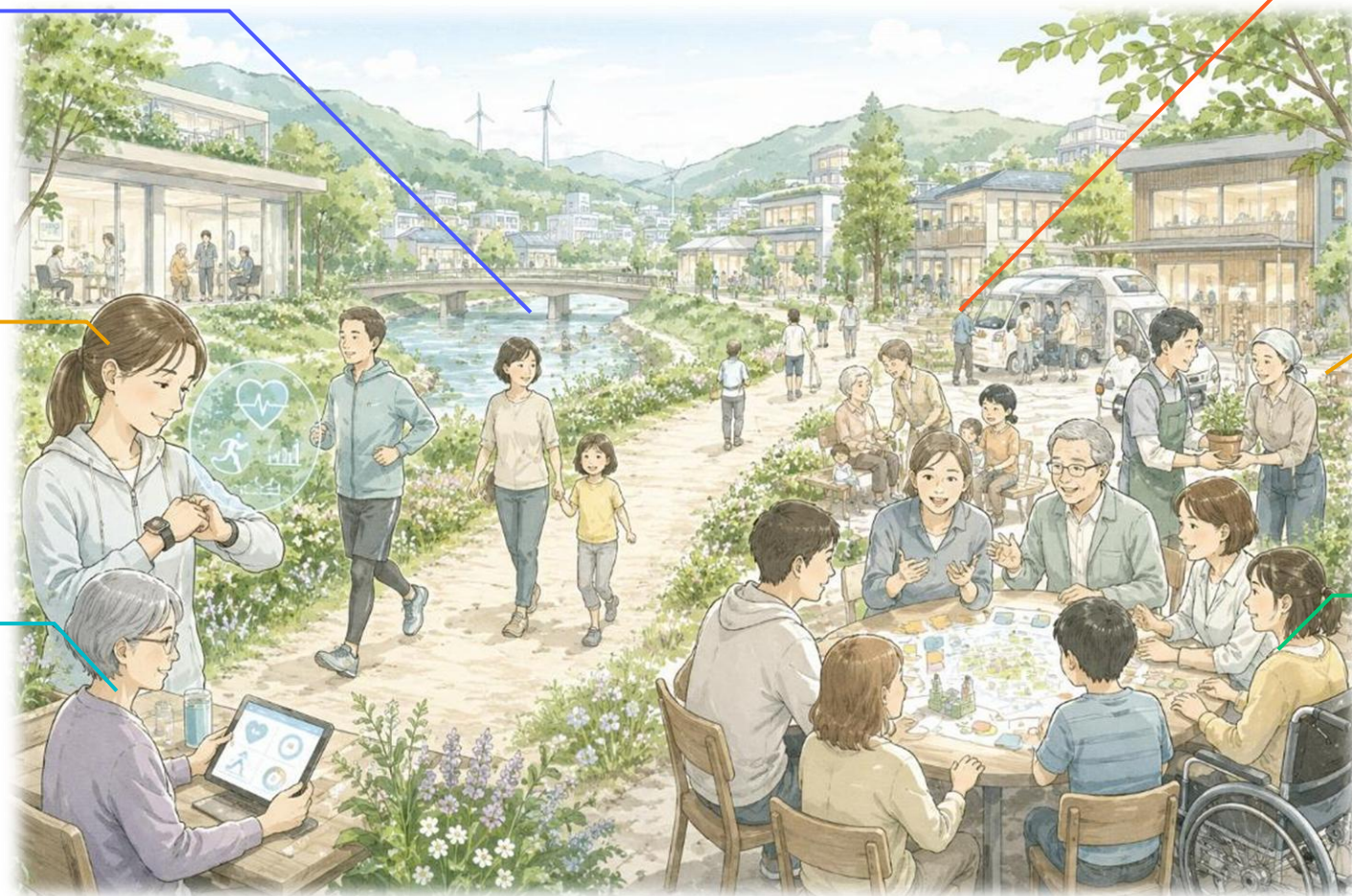
地域の包摂的コミュニティで市民を孤立させない

世代を超えた繋がり と「居場所」

多様な属性の人が気軽に立ち寄れる「居場所」を維持し、世代を超えた繋がりを保つ

共創による地域課題の解決

「共創プロジェクト」を通じて、限られた資源の中で市民同士が支え合う体制を構築する



日野市立病院に期待されていた役割→今や実現性は？

24h365dで内科・外科・小児科を含む二次救急指定病院として救急患者を受け入れ、「お断りの無い医療」を実現する。

地域医療の
セーフティネット

市内唯一の
周産期・小児医療
インフラ

日野市内で唯一分娩ができる医療機関であるほか、小児救急診療体制を確保することで、日野市の出産・子育てインフラとなる。

地域医療連携の
中核的ハブ

地域医療支援病院としてかかりつけ医と機能分担しつつ、診療情報共有等を通じて地域包括ケアシステムのハブとして機能する。

公立の災害医療・
感染症対策拠点

東京都災害拠点病院として、DMATを擁するほか、感染症指定病院としても地域医療を支える。

福祉施策と
連動した後方支援

市の精神保健や女性特有の健康支援、在宅療養等市の福祉健康施策全体を下支えする現場機関。



市当局が考える「市立病院に期待する役割」

日野市立病院に
期待されていた役割

環境の変化により
従来の役割を果たすことが
困難になっている

事実

病院の経常赤字が市が支えられる範囲を
大幅に超過して悪化

条
件

① 繰出金は10億円規模（インフレ等を考慮）

② 地域医療における市立病院の役割を、持続可能な経営形態の範囲で実行する

市として大切にしたい価値

- 市民が必要な医療を必要なときに受けられること
- 子どもと高齢者を支える医療・介護の基盤を維持すること
- 将来にわたり持続可能な地域医療を維持すること

市立病院に期待する役割

- 民間医療機関では担いにくい医療を支えること
- 子どもと高齢者を支える医療を提供すること
- 災害や感染症など有事の医療提供体制を支えること
- 地域医療機関との連携の中核を担うこと

検討にあたっての考え方

- 市立病院の役割と持続可能な経営の両立を目指す
- 現在の機能や規模を前提とせず、人口動態や医療需要の変化を踏まえる
- 市立病院単独ではなく地域全体で考える



市当局の現状認識



日 野 市

Hino City

前提① 財務狀況・經營狀況

前提② 外部環境

前提①ひっ迫した財務状況

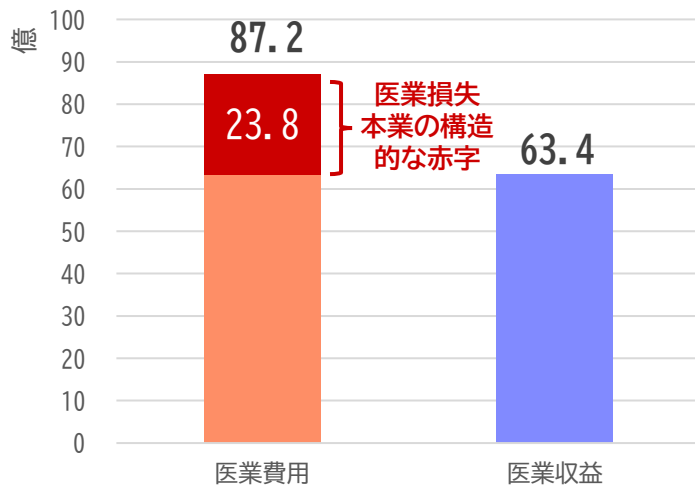
- 財務三表を通じて見える元凶は、本業の医業赤字である（PL）
- R6年度の医業損失は▲23.8億円、これを埋めるため現金が急速に流出している（CF）
- 資産余力も小さく、赤字がそのまま現金減少と体力低下につながっている。R6末時点で既に限界（BS）

人件費増を主因とした
本業の赤字（▲23.8億円）
医業費用＞医業収益

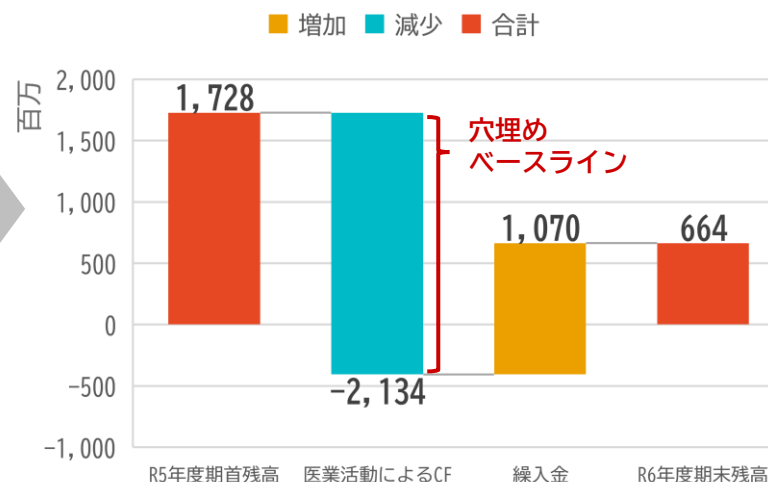
急速な現金の流出
17.2億円→6.6億円
自力での資金不足額：21.3億円

企業体力の枯渇
流動資産18.8億円－
流動負債17.7億円＝1.1億円

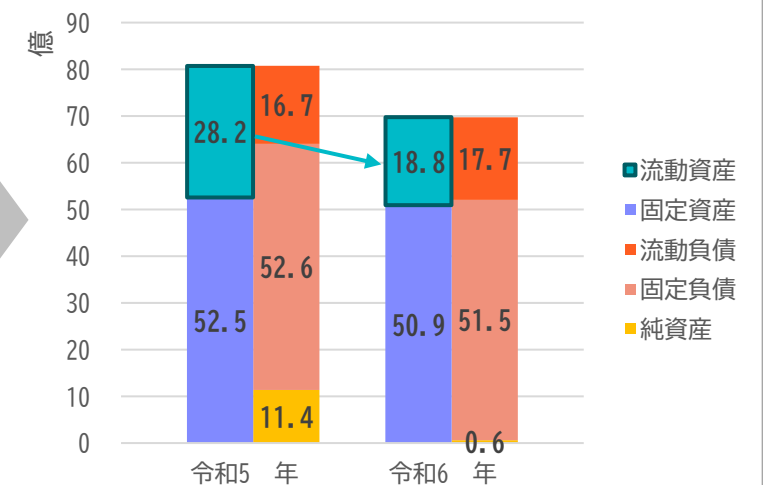
令和6年度損益計算書（医業収支）



令和6年度キャッシュ・フロー計算書



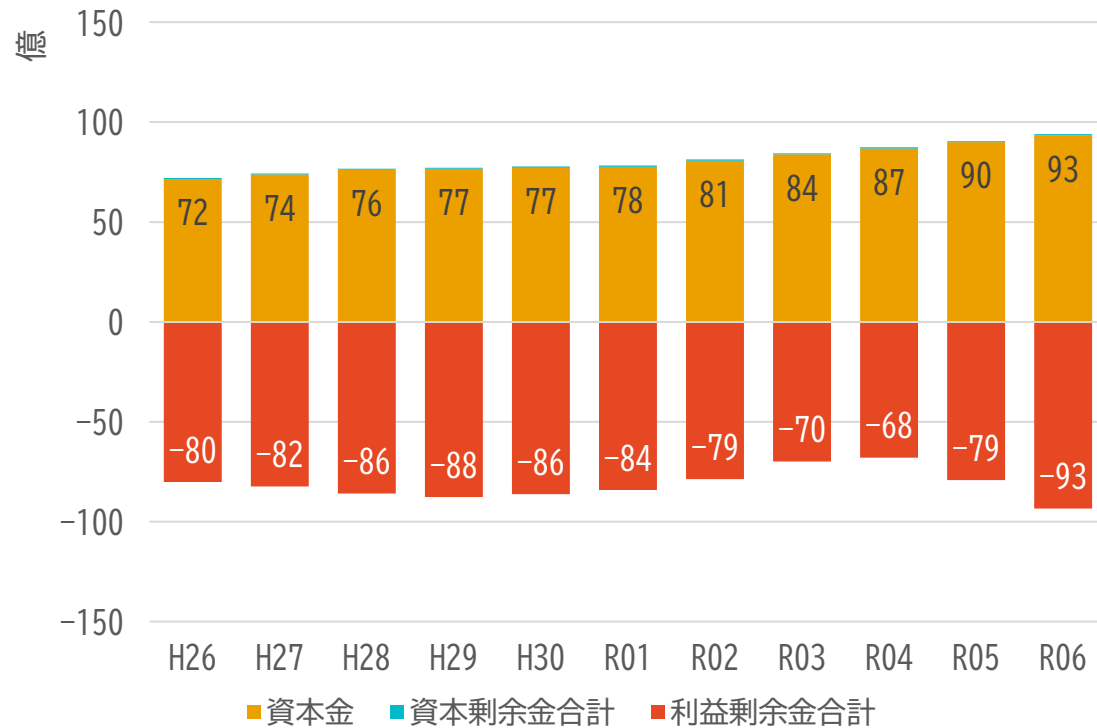
令和6年度貸借対照表



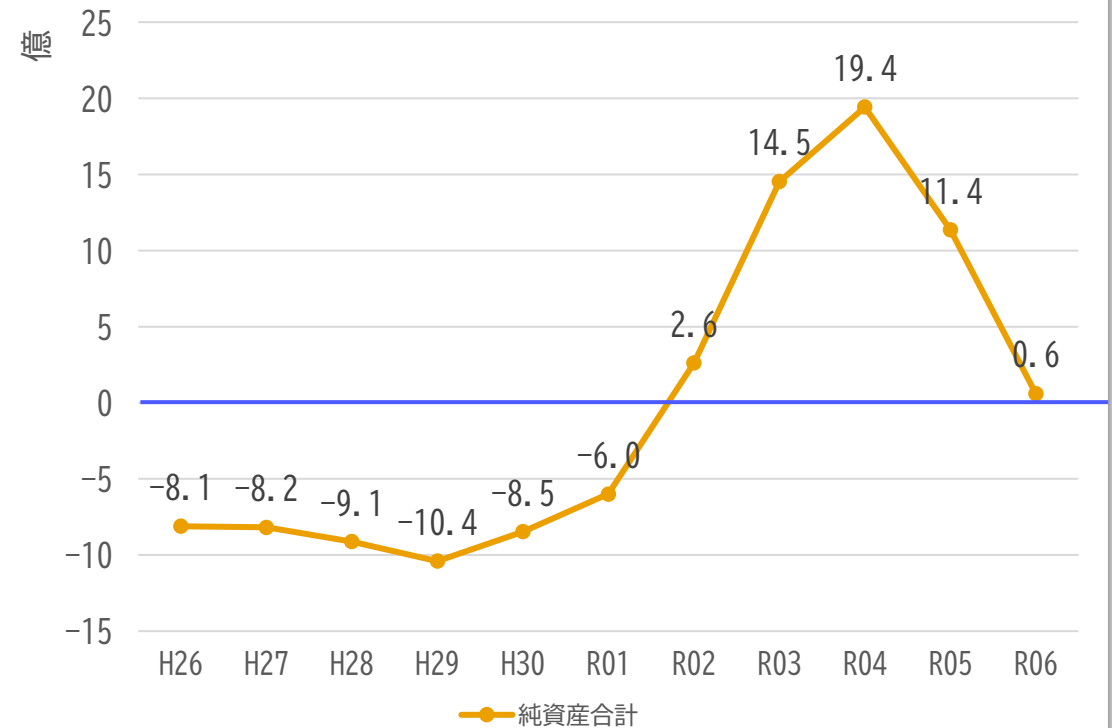
前提①欠損金（純損失）の累計

- 純損失の累積が93億円まで積み上がっている（R7年度内に減資）
- 純資産はR5、R6年度と連続して減少。R6決算では0.6億円となっている。

資本金・利益剰余金（欠損金）推移

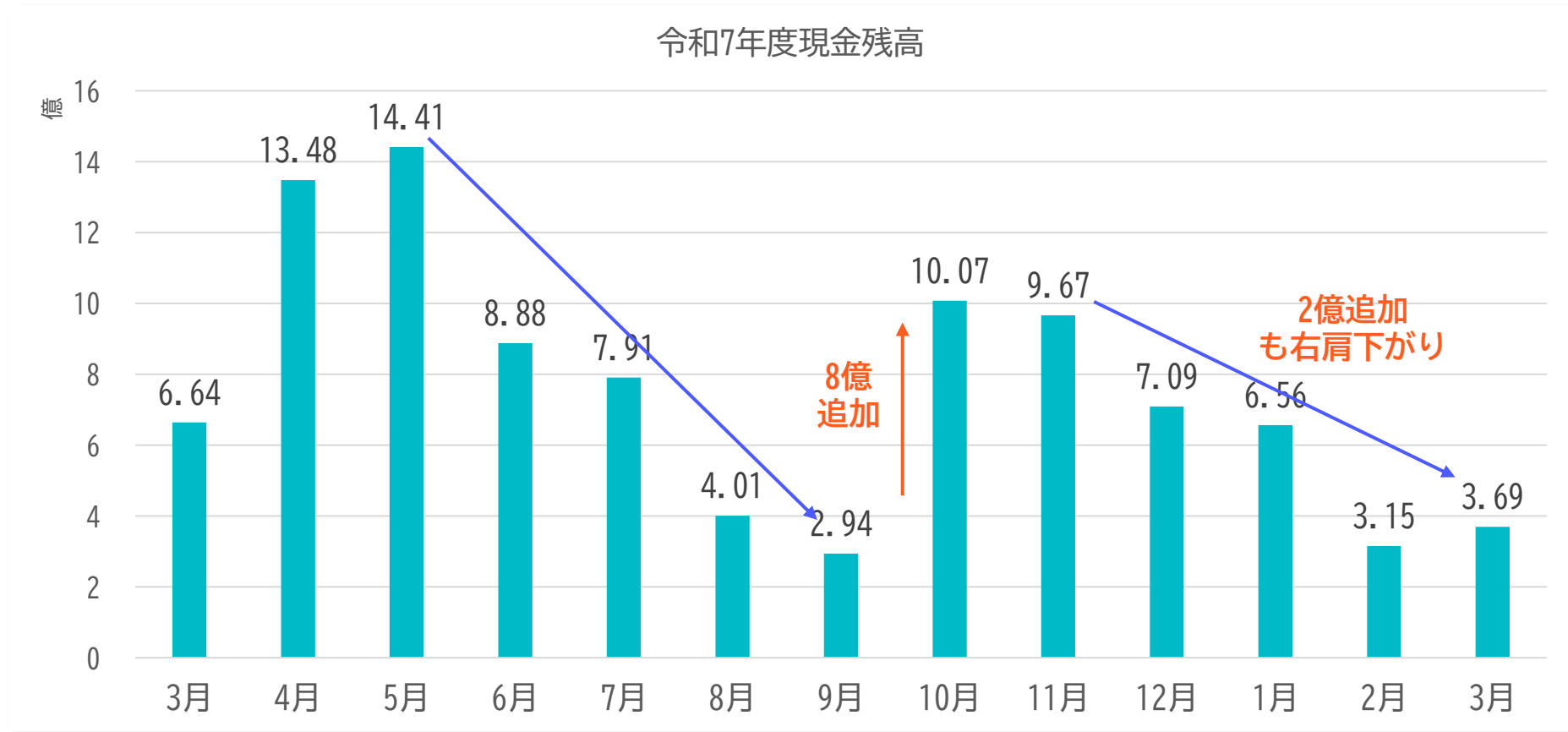


純資産合計



前提①R7年度10億円の追加貸付

- R6年度末の現金残高は6.6億円だが、R7年度末は3.69億円見込み。
- その間に8億円+2億円の追加貸付を受けている。
- 借入で一時的に持ちこたえても、月次推移では現金残高が右肩下がりになっている。

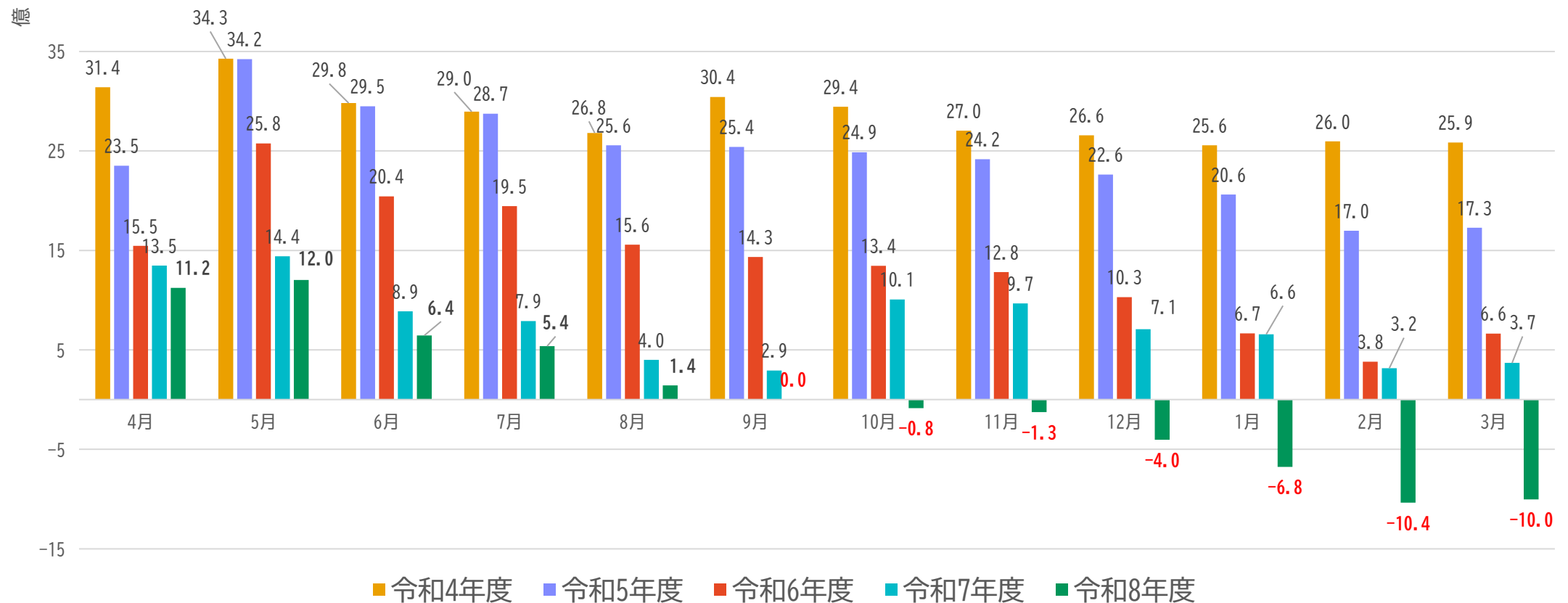


前提①R8年度資金見込み

- R8年度は、9月には資金が不足する予想がされている。
- R8年度末には、合計約10億円の不足が生じる見込み。

R4-R8現金推移（R8は見込み含む）

※ R8年5月以降は見込み

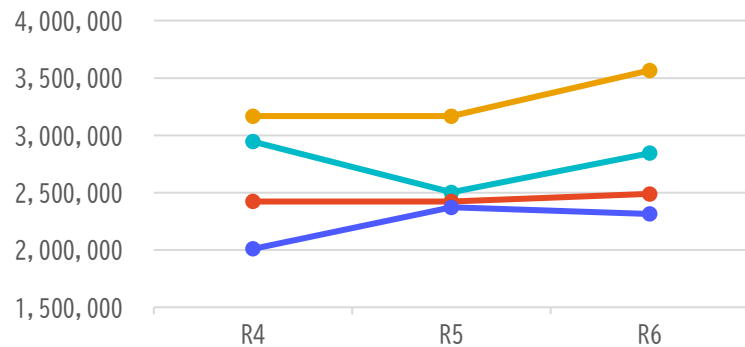


前提①繰出金の額

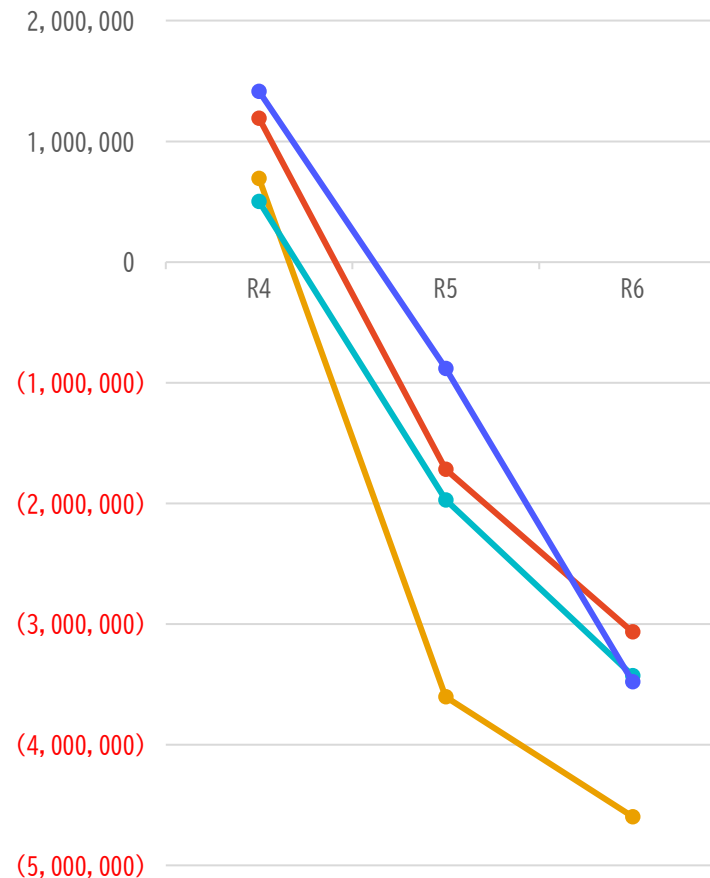
- 公立病院の中でも比較的多額の一般会計繰出金を拠出
- 医業収益・経常収支共に、都内市単独設置公立病院中下層に位置

日野 町田 稲城 青梅

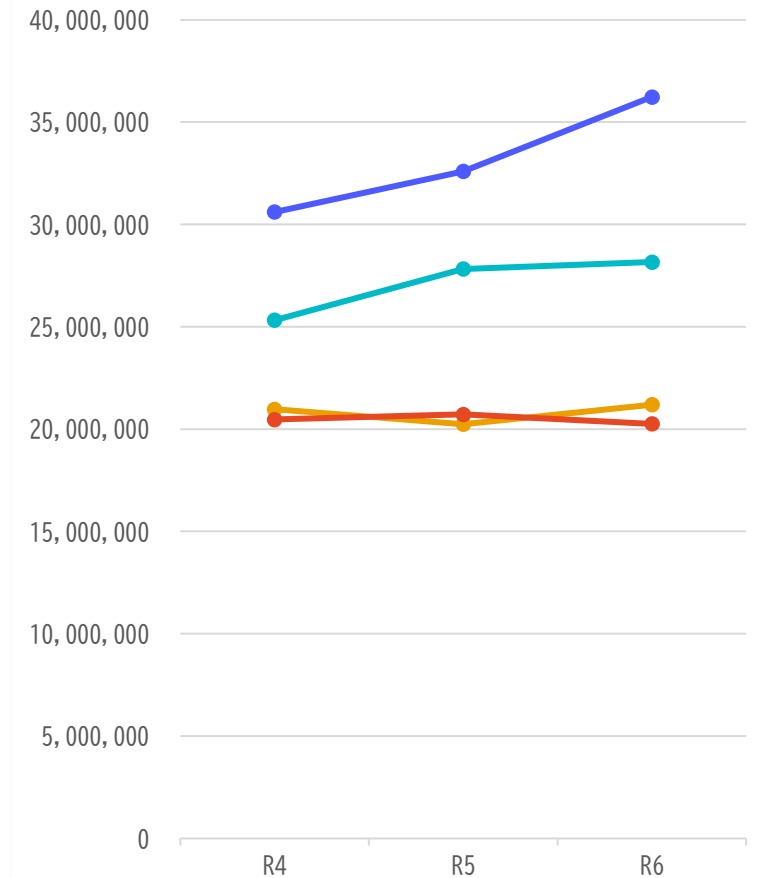
病床数あたり市繰出金



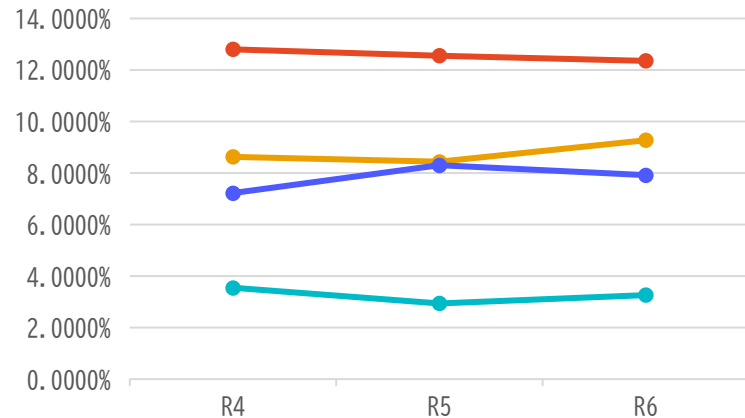
病床数あたり経常収支



病床数あたり医業収益



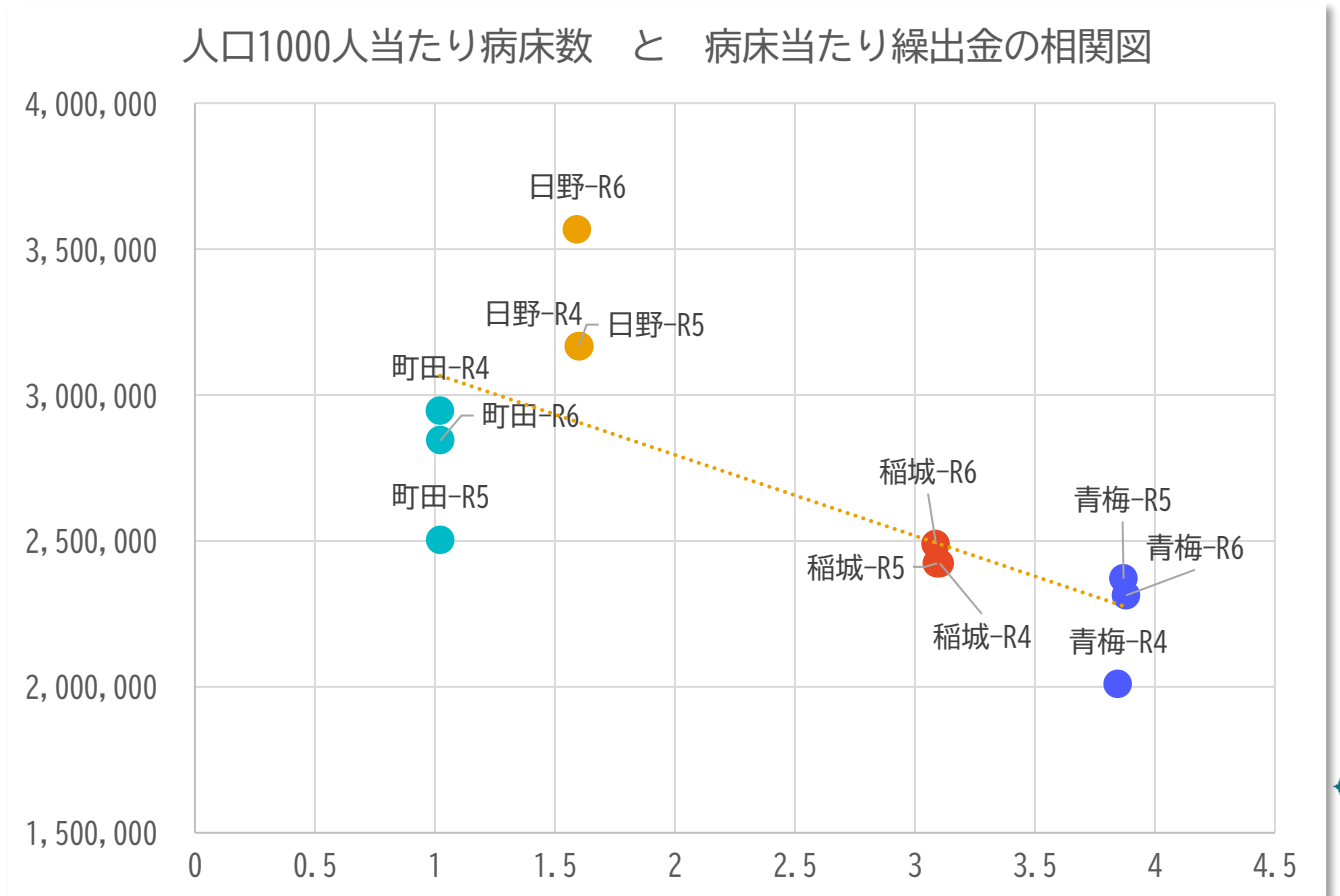
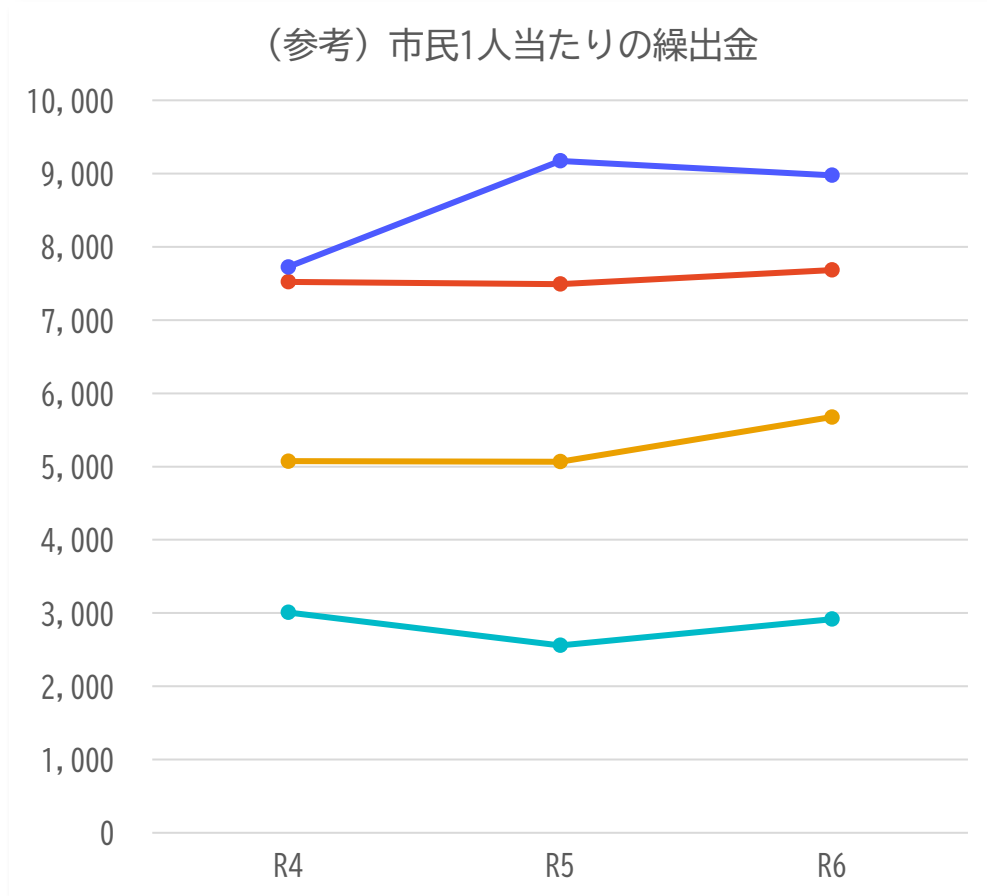
標準財政規模あたり繰出金額



前提①繰出金の額

- 市民一人当たりの繰出金は約5,000～6,000円
 - 人口比病床数（横軸）と病床数比繰出金（縦軸）の相関から見て、戦略的ポジションは確立されていない
- 右下：人口比でのスケールメリット 左中位：人口比での小規模効率運営 など

日野 町田 稲城 青梅



前提①今後の収支予測

※本シミュレーションは、令和6年度決算を基礎として一定の仮定を置いて試算した参考値です。
前提条件の変更により結果は大きく変動します。試算の前提条件とあわせてご参照ください。
※あくまでも参考資料としてご参照ください。

◆シミュレーション条件（基本的考え方）

- R6年度決算額を基準とした、R8-R14年度まで収支のシミュレーション
- 医業費用に2%のインフレを考慮する
- 収益についてはR6年度の額を基準とするが、経営改善効果額見込み（診療報酬改定、急性期A加算、救急応需増、その他収益改善・費用削減等）を加算する

◆各収益・費用の考え方

- ① 医業収益（収入）：R6決算額で固定
 - ② 医業費用（総コスト）：減価償却費を除く医業費用に一律年2%のインフレ率を考慮
 - ③ 医業損益：①-②の差額
 - ④ 経常収益：R6決算額で固定
 - ⑤ 経常費用：R6決算額の「医業費用+4.0億円」で固定
 - ⑥ 経常損益：④-⑤の差額
- ※繰出金は10.7億円固定

◆赤字補填必要額の考え方

- ⑦ 経営改善効果：R8年度以降見込まれる収益増と費用減の合計
- ⑧ 建設債の償還終了に伴う経営改善効果：建設債償還終了に伴う効果額 ※1
- ⑨ 赤字補填必要額：⑥-⑦⑧の差額。経営改善効果を見込んだうえでも残る赤字を「赤字補填必要額」とする

※1 市からの繰出金の内訳には「建設債償還」が含まれているが、それらを考慮せず一定額の繰出金を認める場合として算出

単位：億円

	R6 (基準)	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
① 医業収益（収入）	63.4	63.4	63.4	63.4	63.4	63.4	63.4	63.4	63.4
② 医業費用（総コスト）	87.2	88.8	90.5	92.2	93.9	95.7	97.5	99.3	101.2
③ 医業損益（①-②）	△ 23.8	△ 25.4	△ 27.1	△ 28.8	△ 30.5	△ 32.3	△ 34.1	△ 35.9	△ 37.8
④ 経常収益	76.9	76.9	76.9	76.9	76.9	76.9	76.9	76.9	76.9
⑤ 経常費用	91.2	92.8	94.5	96.2	97.9	99.7	101.5	103.3	105.2
⑥ 経常損益（④-⑤）	△ 14.3	△ 15.9	△ 17.6	△ 19.3	△ 21.0	△ 22.8	△ 24.6	△ 26.4	△ 28.3
⑥ 経常損益	△ 14.3	△ 15.9	△ 17.6	△ 19.3	△ 21.0	△ 22.8	△ 24.6	△ 26.4	△ 28.3
⑦ 経営改善効果（収益増と費用減の合計）	-	-	2.8	2.8	4.7	4.7	6.6	6.6	8.5
⑧ 建設債の償還終了に伴う経営改善効果	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	3.1	5.4
⑨ 赤字補填必要額（⑥-⑦⑧）	-	-	△ 14.8	△ 16.5	△ 16.3	△ 18.1	△ 16.4	△ 16.7	△ 14.4
市必要繰入総額	10.7	10.7	25.5	27.2	27.0	28.8	27.1	27.4	25.1

↑貸付金10億を除く

前提①経営強化プランの進捗状況

経営強化プラン				過去実績値	
指標	R7年度目標	R7年度実績（3月まで）		R6年度	R1年度 （コロナ前）
			直近実績 （3月）		
病床利用率	82.0%	65.0%	66.6%	65.3%	79.4%
平均在院日数	11.0日	11.3日	12.1日	11.0日	11.1日
入院患者1人1日 単価（円）	65,000円	60,801円	58,357円	60,459円	52,910円
外来1日平均 患者数（名）	700人	592.4人	595.7人	613.4人	803.8人
外来患者1人1日 単価（円）	13,500円	12,675円	12,571円	12,611円	10,996円
医業収支における 給与比率（%）	58.9%	84.90% ※3月末暫定値 決算後確定	－	81.5%	65.7%
医業収支における 材料比率（%）	24.6%	24.40% ※3月末暫定値 決算後確定	－	23.7%	22.2%
紹介患者数 （紹介率）	10,000	9,006 （75.0%）	742 （75.3%）	9,061 （72.4%）	－
逆紹介患者数 （逆紹介率）	15,000	15,579 （129.8%）	1,448 （147.0%）	15,320 （122.5%）	－

経営強化プラン				過去実績値	
指標	R7年度目標	R7年度実績（3月まで）		R6年度	R1年度 （コロナ前）
			直近実績 （3月）		
全身麻酔件数（件）	3,260件	2,564件	235件	2,539件	2,962件
手術件数（件） ※予定	2,900件	2,155件	202件	2,213件	2,633件
手術件数（件） ※緊急	360件	409件	33件	326件	329件
全身麻酔件数（件）	1,630件	1,545件	148件	1,422件	1,561件
救急車による 救急患者受入数（名）	2,800件	2,888件	243件	2,536件	3,527件
分娩件数（件）	300件	166件	11件	160件	250件
入退院支援 加算算定率（%）	40.0%	83.2%	89.4%	58.2%	－
認知症ケア 加算算定率（%）	60.0%	45.0%	33.3%	43.6%	－
経常収支比率（%）	100.3%	89.6% ※3月末暫定値 決算後確定	－	84.3%	102.4%
医業収支比率（%）	87.3%	75.6% ※3月末暫定値 決算後確定	－	72.7%	87.2%



前提②医療圏における急性期の供給過多

- データ上、南多摩医療圏+隣接市では急性期病床はすでに余剰傾向
- 診療症例及び科目別に見ても、数値上、周囲の病院に市立病院受療分を吸収できる十分なキャパシティがある
- 将来的に日野市における急性期の入院患者数は、最大29.1%減少すると推計されている。

